

雪国の植物 ユキツバキ 17

ダムの浸水地における群落の成立

石 沢 進

ユキツバキはダム周辺に生育し、満水時に根部が沈水状態になっても生存していることを本誌22号(10頁)に記録した。今回は再びこれに関連した事例を紹介したい。

本年8月、岩船郡関川村いぶり差岳の植物調査に参加する機会があり、大石ダム周辺の植物についても観察することができた。その際、大石ダムの満水時に水没すると思われる縁辺部に広く拡がっている低木群落を遠望し、その群落の樹種を確かめるため、現場まで近づいてみた。ユキツバキが良好に生育し、他の樹種は殆ど生育することなく、ダム縁辺部にユキツバキ群落の成立を確認した。

大石川の西俣、東俣のダム周辺部のいずれにも同じような群落があり、ダム周辺部の案内板にも「雪椿園」と称した位置を明示してあった。ユキツバキ群落が広域にわたって見られることから、人為的にユキツバキを植栽したとは考えにくい。ダム建設前は大石川はV字渓谷であり、その兩岸はやや台地状の平坦部のところが多く、ユキツバキはその平淡部に以前広く分布していた。ダム建設後その平坦部もかなり水没する結果になったが、湛水期間の短い平坦部のユキツバキが残存し、枯れずに生き続けているものと

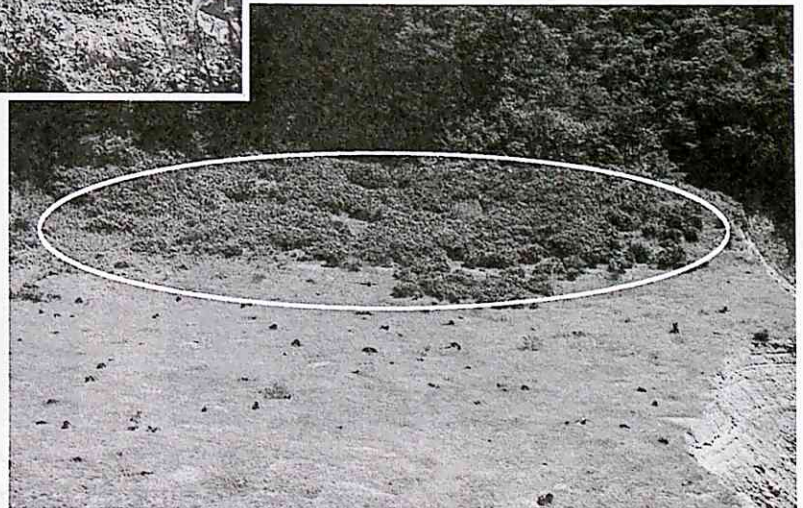
思われる。すなわち、建設後ダムの満水時にも窒息死しないで、生き残ったのに他の樹種の多くは生存できず絶滅したものと考える。

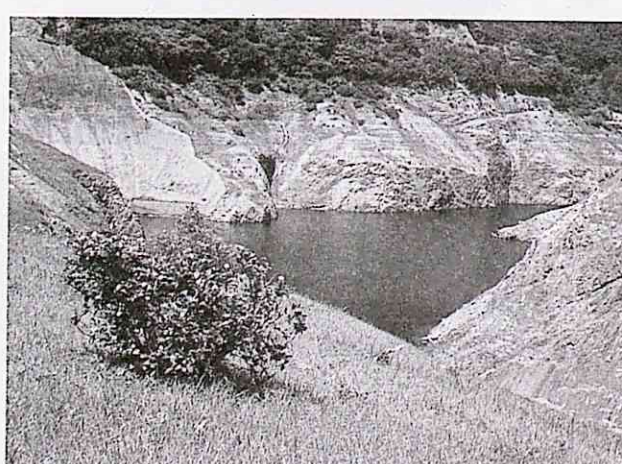
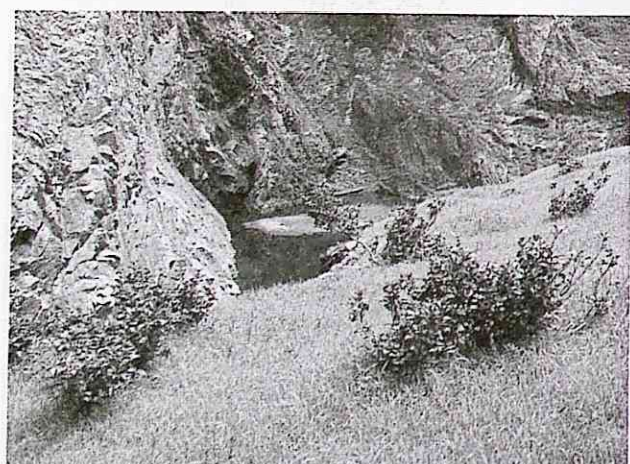
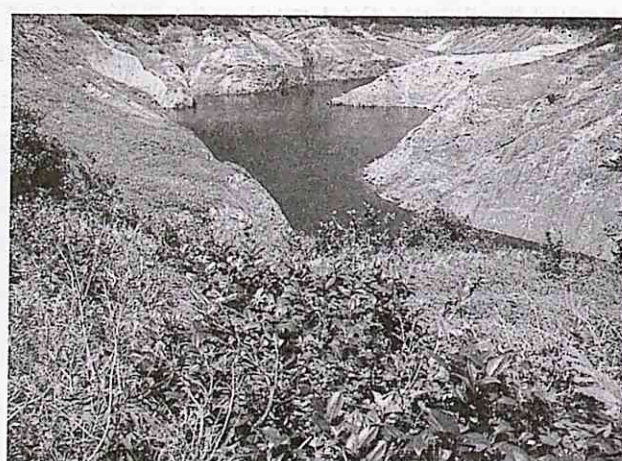
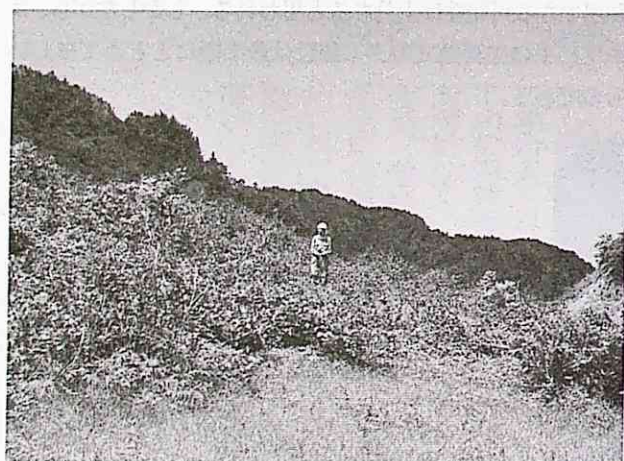
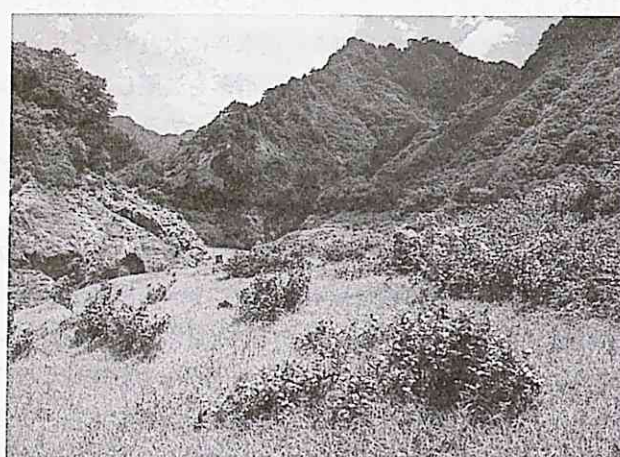
日本海要素の常緑低木の中で、ハイヌツゲはしばしば湿地の中にも生育し、群生することもあるが、その他の常緑低木は湿地の内部には稀にしか生育していない。ユキツバキもハイヌツゲのように常時湿生条件のところに自然状態で広く群生している例を見ていない。ユキツバキが水流沿いの水の停滞する縁部や池の水近くに生育して土壌水分の多い条件にも生育しているがハイヌツゲほど耐性がないようである。しかし、一時的に根部あるいは植物体全体が水中に埋まる沈水条件ではユキツバキに耐性がそなわっていて生存している。

近年ダムの水位変動部の裸地部に植栽して緑化を保ちたいとの試みもなされてきている。多雪地域でユキツバキの生育する所では、ダム満水時の縁部の緑化にユキツバキを利用できる可能性は十分あると思われる。しかしながら、ユキツバキの生育地でのダム建設は最小限にとどめてほしいものである。



浸水地におけるユキツバキの群落
(実線で囲んだ範囲) 1999 8 7





大石ダムの浸水地におけるユキツバキの生育
(ダム満水時の最前線に生育する低木がユキツバキ)